科目名	健康危機管理論 （災害看護含む）	科目ナンバリング	N-NP NI 2-34.S N	単位数 時　間	1単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
		科目コード	N30038		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	中　尾　八重子 （実務経験のある教員）		授業 形態	講義		単独
	アクティブラーニング	有							

授業の概要	健康危機管理の概念および国・都道府県・市町村の健康危機管理体制を理解し、健康危機管理における看護職の役割について学ぶ。災害サイクルに応じた医療保健活動と近年の公衆衛生の課題である感染危機管理について学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2、3に関連し、カリキュラムポリシー2-1、3-1に関連している。
到達目標	１．健康危機管理の概念・目的について説明できる。 ２．健康危機管理の制度・システムについて説明できる。 ３．健康危機管理活動における看護職の役割について説明できる。 ４．避難所の生活と必要な支援の演習を通し、実際の災害時の理解とともに新たな気づきを述べることができる。

回		授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	健康危機管理とは	健康危機管理の概念・目的 災害とは、感染症とは	
第2回	災害と看護活動	災害看護とは　災害サイクル　看護の役割	
第3回	災害発生と社会の対応や仕組み	災害に関する制度、情報の伝達の仕組み、支援体制と災害関係機関	
第4回	災害サイクルと保健医療活動	災害サイクルに沿った保健医療活動　こころのケア	
第5回	避難所の生活と必要な支援（1）	演習：避難所の生活	グループワーク ディスカッション
第6回	避難所の生活と必要な支援（2）	演習：避難所における支援 課題：避難所運営に於いて大事なこと（レポート）	グループワーク ディスカッション
第7回	感染症	感染症とは　　感染症に関する制度 結核、AIDS、食中毒など	
第8回	感染症対策	保健所における感染症の健康危機管理	

評価方法及び評価基準	1）2/3以上の出席者につき、演習の参加状況や課題、定期試験等から総合的に評価。 2）演習の参加状況：10% 3）課題（レポート）：20% 4）定期試験：70%
課題等	課題（レポート）は、返却しない。
事前事後学修	近年の国内外で発生した災害に関する情報を収集する。 アウトブレイクやパンデミックに至った感染症等の情報を収集する。
教材 教科書 参考書	教科書：標準保健師講座3　対象別公衆衛生看護活動　第4版、医学書院、2018　ISBN978-4-260-03187-5 授業の中で、随時、参考図書を紹介する。
留意点	1）災害被災者の状況や支援の実際・課題等に関心を持ちニュースや新聞等を読むこと。 2）授業で学んだことから生活における防災・活動の実践を考える。

科目名	卒 業 研 究		科目ナンバリング	N-NP NI 2-46.H N	単位数 時　間	4単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目コード	履修登録届参照		120時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	教授、准教授、講師			授業 形態	演習		複数
	アクティブラーニング	有								

授業の概要	［授業の主旨］ この授業の目的は研究プロセスを経験し、看護基礎、看護実践（基礎・成人・老年・小児・母性・精神・在宅・公衆衛生）の各分野において学んできた知識および技術などを生かして、将来の研究活動や実践活動での研究基盤を構築することを目的とする。年間のスケジュールに応じて、卒業研究指導教員の指導を受けながら研究を実施し、論文を完成させ、口頭発表する。 ［ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項］
到達目標	１．　研究課題を明確にできる。 ２．　研究計画書を作成できる。 ３．　研究を実施できる（対象が人の場合、倫理的に配慮できる）。 ４．　口頭発表用抄録を作成し、口頭発表ができる ５．　論文を作成し、提出できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
	《　卒業研究の流れ　》 １）研究原案提出（決められた期日に提出） ２）指導教員決定 指導教員が決定した後に、各指導教員と個々に話し合いを行い、研究計画書を立案する。 ３）研究課題の提出（決められた期日に提出） 看護学部学務課へ提出する。 ４）研究論文草稿提出（決められた期日に提出） 指導教員へ提出する。 ５）抄録提出（決められた期日に提出） 看護学部学務課へ提出する。 ６）卒業研究発表会オリエンテーション 詳細は後日連絡 ７）卒業研究発表会 ８）論文提出（決められた期日に提出） 看護学部学務課へ提出する。		グループワーク ディベート プレゼンテーション PBL

評価方法及び評価基準	研究プロセスを含み、提出論文等により評価する。
課題等	指導教員に要確認。
事前事後学修	指導教員に要確認。
教材 教科書 参考書	教科書等は、「研究方法論」の科目で紹介する。
留意点	指導教員と密に連絡をとり、それぞれの提出期日を厳守すること。

科目名	看護統合実習		科目ナンバリング	N-PH 2-47. ＨＮ	単位数 時　間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	前期
			科目コード	履修登録届参照		90時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	教授・准教授・講師・助教・助手			授業 形態	実習		複数
	アクティブラーニング	有								

授業の概要等	〔授業の主旨〕 実務に即した実習を通して看護実践能力を高め、これまでに学んだ知識・技術を統合し、医療チームの一員としての看護専門職の在り方を探求する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2、3-1、3-2、4-2、5-1、5-2に関連している。
到達目標	1. 主体的に自己の探求課題に取り組み、自己研鑽する能力を高める。 2. 対象の様々な状態をアセスメントし、計画、実施、評価する看護実践能力を養う。 3. チームの一員として実務に即した実習を行い、質の高い看護を実践するプロセスを理解できる。 4. 医療チームにおける看護職の役割を認識し、関連職種との連携・協働の必要性を理解できる。 5. 看護専門職として必要な職業観と倫理観を培う。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
	【統合実習の流れ】		
実習前	看護統合実習ガイダンス	看護統合実習全体のオリエンテーション	グループワーク プレゼンテーション フィールドワーク
	実習施設別オリエンテーション	急性期・慢性期（リハビリテーション含む）、終末期、精神、重症心身障がい児、母性、在宅の各施設実習、地域包括支援実習における施設別オリエンテーション	
	実習前学修	統合実習の目的・目標、各実習施設の特徴を考慮し、自己の実習課題を設定する。	
2週間 (9日間)	臨地・施設実習	実習施設オリエンテーション 情報収集	
		1. 実習を行う病院・施設での看護体制を理解し、チームの一員である専門職の自覚を持って看護を実践する。 2. 複数の患者をアセスメントし、状況に応じて優先度を判断しながら適切な看護を実践する。 3. 継続看護、多職種連携について理解を深め連携の大切さを学ぶ。 4. 学内実習では自己の看護実践について情報交換やディスカッションを行う。 5. 自己の看護実践について客観的な振り返りを行う。	
	実習報告会	「看護が果たす役割」についてグループで発表する。	
	○原則として、毎日カンファレンスを実施	○カンファレンスは司会を決めて行う。 各自が専門職意識を持って参加する。	

評価方法及び評価基準	4/5以上の出席者につき、看護統合実習評価表（実習評価70点、学修姿勢20点、レポート10点）に基づき総合的に評価する。
課題等	実習要項を参照。
事前事後学修	実習要項を参照。毎日の実習やカンファレンスを通し、「看護として重要だ」と感じた場面を記録しておくこと。 実習終了後テーマを設定し、レポートにまとめ提出する。
教材 教科書 参考書	授業で使用したテキスト・プリント・自己学習資料を活用する。
留意点	チームの一員であることを意識して実習すること。アセスメントとは何かを復習し、主体的に実習に臨むこと。

科目名	公衆衛生看護学実習	科目ナンバリング	N-PH 4-05.P P	単位数 時　間	5単位 225時間	対象学年	4年	開講学期	前期
		科目コード	N31016						
区分	看護実践科目	保健師必修	担当者名	中尾 八重子・日下 純子 （実務経験のある教員）			授業形態	実習	複数
	アクティブラーニング	有							

授業の概要等	〔授業の主旨〕 生活背景や家族関係、社会との関係等を含めて公衆衛生看護の対象である地域で生活している人々を理解する。また、個人・家族、集団のニーズに対応し、健康の保持増進に向けた支援と公衆衛生看護に必要な基本的な知識・技術・態度を修得する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシー1-1,2-2,3-1,4-2,5-1,5-2に関連している。
到達目標	1. 地域保健（保健所・市町村） 1）公衆衛生看護活動における保健所と市町村の機能と役割を説明できる。 2）地域の人々の健康と生活の情報をアセスメント・分析し、健康・生活課題を明らかにすることができる。 3）地域で生活する人々の健康と生活のニーズを明らかにし、健康の保持増進に向けた家庭訪問と健康教育が実践できる。 4）個人・家族、集団の健康問題の解決のための基本的な支援技術の特徴を説明できる。 5）個人・家族、集団、地域の健康・生活課題の抽出や解決のために必要な社会資源とその活用および地域ケアシステムとの関連について考察できる。 6）保健所・市町村における公衆衛生看護（保健師）の役割と公衆衛生看護管理の特徴を説明できる。 2. 産業保健 ・ 事業場における保健活動を理解し、働く人々の健康の保持増進のための支援と看護活動を考察できる。 3. 学校保健 ・学校における保健活動の概要を理解し、養護教諭の役割を考察できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
	【公衆衛生看護学実習の流れ】		グループワーク ディベート プレゼンテーション 実習 フィールドワーク PBL
1	実習ガイダンス（半日）	実習の全体像・事前学習等	
2	実習オリエンテーション（半日）	実習目的や目標、実習内容、実習の進め方、留意事項等	
3	保健所実習 （学内１日間・臨地４日間）	青森県立の２保健所 弘前保健所、むつ保健所	
		保健所における公衆衛生看護活動の実際を学ぶ（4日間）	
		実習最終日には各保健所においてカンファレンスを行う カンファレンスの運営は学生が行い、必要に応じて資料を準備する。	
4	市町村実習 （学内５日間・臨地１０日間）	実習市町村の地域診断 健康教育指導案の作成	
		青森県内の４市町村 青森市・階上町・新郷村・田舎館村	
		市町村における公衆衛生看護活動の実際を学ぶ（10日間）	
		実習施設において日々・中間・最終カンファレンスを行う。 カンファレンスの運営は学生が行い、必要に応じて資料を準備する。	
5	地域保健のまとめ（学内１日間）	学びの共有とグループワーク	
6	事業場（１日間）	産業保健担当者の講話・演習等	
7	学校（１日間）	学校保健担当者の講話・学校内の見学	
8	まとめ（学内１日間）	学びの共有とグループワーク	
		※詳細については別途提示する	

評価方法及び評価基準	4/5以上の出席者につき、公衆衛生看護学実習評価表に基づき総合的に評価をする。
課題等	グループでの取り組みの地域診断・健康教育の記録物は、返却しない。 Teams等で適宜、提示する。
事前事後学修	実習市町村の地域診断を行う。 実習機関の管轄地域について、情報を収集し整理する。
教材教科書参考書	公衆衛生学および公衆衛生看護学の関連科目の教科書・国民衛生の動向・授業で提示した教材や資料等
留意点	1）実習生にふさわしい態度（対人面・学習面）を心がける。実習施設によっては、宿泊を伴うため実習時間以外の行動においても社会人としてのマナーを守る。 2）グループ単位の行動が多いため、メンバーシップを発揮し、主体的に行動する。 3)上記の教材を活用し、実習（学習）の理解を深めること。

科目名	成人看護学実習Ⅰ	科目ナンバリング	N-NP CT 2-50.H N	単位数	3単位	対象学年	3年～4年	開講学期	3年後期～4年前期
		科目コード	N31004	時　間	135時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	土屋陽子,　井澤美樹子 （実務経験のある教員）			授業形態	実習	複数
	アクティブラーニング	有							

授業の概要等	〔授業の主旨〕 健康障害を持ちながら生活していく生活者としての成人および高齢者とその家族を、包括的な視点から理解し、対象の健康状態に応じた療養生活支援に必要な実践能力を養う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1,2,3,4,5に関連し、カリキュラムポリシー1-1,2-2,3-1,4-2,5-1,5-2に関連している。
到達目標	1. 生活者である対象の健康状態を理解し、健康障害が及ぼす身体的・心理的・社会的影響を理解できる。 2. 対象の最良の健康状態を目指し、科学的根拠に基づいた看護を実施できる。 3. 保健医療チームにおける看護者の役割と責任、チーム間の連携や協働および関係機関との連携のあり方を理解できる。 4. 看護の対象となる人の権利の保障や倫理的配慮について学び、常に相手を尊重する態度を養う。

授　業　計　画

回	主　題		授業内容	備考
実習前	臨地実習ガイダンス		臨地実習全体のオリエンテーション（臨地実習開始前） 成人看護学実習Ⅰの概要説明・事前学習について	
1週目	初日	学内オリエンテーション 学内演習	1.実習計画・内容 ①３週間の実習(1･2週目の病棟実習と3週目の学内実習）を行う。　②各クールの実習1日目は、学内で実習施設毎のオリエンテーションと演習を行う。 ・実習日程と実習の進め方、留意事項、実習施設に関する説明 ・学内演習：慢性病のある人の事例を用いた対象理解・技術演習　③1週目・2週目に、中間・最終カンファレンスを行う。　④3週目は、学内で実習記録の追加・修正・整理、テーマカンファレンス、実習レポート作成を行う。 ⑤連携室の見学実習を行う。 2.実習方法 ①慢性期・終末期にある成人期あるいは老年期の患者を原則1名受け持ち、看護展開を展開する。 ②実習時間：8時30分から16:15分（実習施設や教育上必要と認められる場合は、時間を変更することがある） ③実習指導者・教員の指導のもとに実習を行う。 ④知識を深め、学びを共有するために、様々なカンファレンスを行う。	
	2～5日目	病棟実習 中間カンファレンス		
２週目	1～4日目	病棟実習 見学実習		
	5日目	病棟実習 最終カンファレンス		
3週目（学内）	1～４日目	実習記録追加・修正・整理 見学実習レポート作成 テーマカンファレンス準備 （文献検索・資料作成） テーマカンファレンス 個別面接 実習レポート作成		
	最終日	実習記録提出		

評価方法及び評価基準	5/4以上出席することにより評価の対象とする。 その上で、「成人看護学実習」評価表（実習目標到達度80点、実習に臨む姿勢10点、実習ケーレポート10点）に基づき評価する。
課題等	根拠に基づいた看護をするために、受け持ち患者の状況に合わせ、随時課題を提示する。
事前事後学修	成人看護学実習事前課題(実習要項記載）は実習開始前までに計画的に行い、活用できるように整理しておくこと。
教材教科書参考書	授業で使用したテキストや資料など、対象理解や技術提供に必要な教科書や資料を自ら必要性を判断して実習施設に持参して活用すること。
留意点	チームの一員としての自覚を持ち、主体的な姿勢で臨むこと。時間や体調などのセルフ・マネジメントをすること。

科目名	成人看護学実習Ⅱ	科目ナンバリング	N-NP CT 2-51.H N	単位数 時　間	3単位	対象 学年	3年～4年	開講 学期	3年後期 ～ 4年前期
		科目コード	N31006		135時間				

区分	看護実践科目	必修	担当者名	村岡 祐介 （実務経験のある教員）	授業 形態	実習	単独
	アクティブラーニング	有					

授業の概要	〔授業の主旨〕 成人・老年期の発達課題や特徴をふまえ、急性期および周手術期、リハビリテーション期にある対象と、その家族の健康問題を総合的に理解し看護の実践方法を学ぶ。対象のセルフケア能力に合わせた健康問題解決のための援助を行うことにより、既習の知識・技術との統合を目指す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの２、３、４、５およびカリキュラムポリシーの2-1,2、3-1,2、4-2、5-1,2に関連する。
到達目標	1. 生活者である対象の健康状態を理解し、健康障害が及ぼす身体的・心理的・社会的影響を理解できる。 2. 対象の最良の健康状態を目指し、科学的根拠に基づいた看護を実施できる。 3. 保健医療チームにおける看護者の役割と責任、チーム間の連携や協働および関係機関との連携のあり方を理解できる。 4. 看護の対象となる人の権利の保障や倫理的配慮について学び、常に相手を尊重する態度を養う。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
実習前	臨地実習ガイダンス	臨地実習全体のオリエンテーション（臨地実習開始前） 成人看護学実習Ⅱの概要の説明	実習グループ 全員出席
実習前	施設オリエンテーション	施設オリエンテーション（臨地実習開始前）	実習グループ 全員出席
1	学内オリエンテーション、 学内演習、受け持ち患者の決定	学内オリエンテーション：実習の進め方、留意事項、実習病棟概要の説明 学内演習：事例に基づき成人看護技術の演習を行う	実習
2	受け持ち患者の看護	1.入院中の周手術期患者を原則として１名受け持ち、看護過程を展開する。 1)コミュニケーション技術を適切に用い、患者・家族に接する。 2)患者の入院前の生活や健康障害の特徴、健康障害によってもたらされた生活や社会活動への影響等の情報を収集し、分析・解釈する。 3)優先度を考え看護上の問題を抽出する。 4)受け持ちの患者に適した看護計画を立案する。 5)受け持ちの患者に適した看護ケアを実施する。 (1)看護ケアを実施する際には、患者に説明し了解を得る。 (2)看護ケアを実施する際には、患者の安全・安楽に配慮して実施する。 (3)看護ケアは原理・原則や患者の残存機能を考慮した方法で実施する。 6)ケアの結果と患者の反応から目標の到達度を評価し、必要に応じて計画を修正・追加する。 7) 中間カンファレンスおよび最終カンファレンスでは、臨地実習指導者・学生間の意見交換を通して、受け持ち患者に対する援助の妥当性を吟味する。 2.患者が退院後にセルフケア能力を発揮できるように支援する。 3.患者・家族に関わる専門職種間の連携・協働の必要性と看護職の役割や機能を学ぶ。 ※見学実習は、ICU、HCU、リハビリテーション室のいずれかで行なう。	実習
3	受け持ち患者の看護		実習
4	受け持ち患者の看護		実習
5	受け持ち患者の看護 中間カンファレンス（ケースカンファレンス）		実習 プレゼンテーション ディスカッション
6	受け持ち患者の看護		実習
7	受け持ち患者の看護、見学実習※		実習
8	受け持ち患者の看護		実習
9	受け持ち患者の看護 最終カンファレンス	受け持ち患者に実施した看護の評価、実習の学び、今後の課題について発表し、学生間で共有する。	実習 プレゼンテーション ディスカッション
10	実習のまとめ	学びの共有（各実習グループ合同） 実習記録を整理し、レポートを作成する。 「看護技術チェックリスト」で自分の技術の習得状況を確認する。	グループワーク プレゼンテーション ディスカッション

評価方法及び評価基準	4/5以上の出席者について「成人看護学実習評価表」に基づき評価する。
課題等	各々の受け持ち患者、学習状況によって課題を提示する場合がある。 実習記録は評価が済み次第返却する。
事前事後学習	日々の行動予定に合わせて事前学習を行うこと。
教材 教科書 参考書	授業で使用したテキスト、資料、事前学習ノート等を活用すること。
留意点	健康管理には十分に留意すること。

科目名	老年看護学実習	科目ナンバリング	N-NP 2-42.H N	単位数 時　間	4単位	対象 学年	3年～4年	開講 学期	3年後期～ 4年前期
		科目コード	N31008		180時間				

区分	看護実践科目	必修	担当者名	佐藤　厚子、小野　綾 (実務経験のある教員)	授業 形態	実習	複数
	アクティブラーニング	有					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 高齢者の身体面・精神面・社会面を含めた全体像を捉え、必要な看護を実践できる能力を養う。高齢者を継続的に支援していくための病院との連携、地域社会との連携、多職種間の連携の重要性を理解し、支援体制を学ぶ。高齢者支援のために必要な資源や環境を理解する。実習を通して老年観、倫理観、看護観、態度を培う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1,2,3, 4, 5,に関連する。 カリキュラムポリシーの1-1,2-2,3-1,3-2,4-2,5-1,5-2に関連する。
到達目標	1. 高齢者を受け持ち身体的・精神的・社会的な面から全体像を捉える事ができる。 2. 高齢者の自立した生活を支援するための看護の役割を理解することができる。 3. 受け持ちケースについて、その人らしい生活を送るための個別的看護が援助できる。 4. 施設での多職種との連携の重要性を理解し、自身もチームの一員として積極的に行動できる。 5. 高齢者や家族、施設スタッフとの関わりを通して、自身の老年観、倫理観、看護観を培い、レポートする事ができる。 6. 専門職としての自覚を養い、高齢者を尊重し尊厳を守る態度を身につけることができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
	臨地実習ガイダンス	臨地実習の全体オリエンテーション(臨地実習開始前) 老年看護学実習の概要の説明、事前学習の説明	全員出席
1	オリエンテーション	学内オリエンテーション、技術確認 実習の進め方、留意事項、実習施設の概要について説明	実習グループ全員出席
2	受け持ちケースの看護	高齢者を1名受け持ち、看護過程を展開する。 カンファレンスは学生主体で行う。 詳細は老年看護学実習要項に示す。	実習
3	受け持ちケースの看護		実習
4	受け持ちケースの看護		実習
5	受け持ちケースの看護 施設内カンファレンス		実習
6	受け持ちケースの看護振り返り	受け持ちケースの看護内容を振り返り、省察する。 看護過程絵展開の発表及び評価。	PBL
7	受け持ちケースの看護振り返り		PBL
8	グループ演習	実習で学んだことをテーマに沿ってまとめ全員が発表を行う。	グループワーク ディスカッション
9	グループ演習		
10	全体まとめ		ディスカッション

評価方法及び評価基準	4/5以上の出席者を対象に老年看護学実習評価基準により評価する。
課題等	老年看護学実習要項を参照してください。
事前事後学修	老年看護学実習要項を参照してください。
教材 教科書 参考書	老年看護学の講義で使用した教科書と参考資料、人体の構造の講義で使用した教科書、人体の機能の講義で使用した教科書、各自の自己学習資料
留意点	1. 施設利用者の健康を守るため、咳嗽や発熱がある学生は実習出来ない。そのため自己健康管理が必要である。 2. 事前学習と実習中の学習を十分に行うこと。 3. 主体性をもって実習を行うこと。 4. 身だしなみを整えること 5. 真摯な態度で臨むこと。

科目名	在宅看護実習	科目ナンバリング	N-NP CT 2-56.H N	単位数	2単位	対象学年	3年～4年	開講学期	3年後期～4年前期
		科目コード	N31018	時　間	90時間				

区分	看護実践科目	必修	担当者名	高田　まり子、對馬　明美 （実務経験のある教員）	授業形態	実習	複数
	アクティブラーニング	有					

授業の概要等

〔授業の主旨〕

地域社会で展開されている在宅看護活動の特徴を学ぶ。
訪問看護ステーションを利用する療養者及び家族のニーズや健康状態のアセスメントを行い、必要な援助方法を学ぶ。

〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕

ディプロマポリシーの2,3,4,5と、カリキュラムポリシーの2-2,3-1,3-2,4-2,5-1,5-2に関連している。

到達目標

1. 在宅療養者とその家族の特徴と健康及び生活に対するニーズを関連づけて理解できる。
2. 在宅療養者とその家族の健康の保持・増進、疾病予防に向けた日常生活の援助が実践できる。
3. 在宅療養者の障害や健康状態をアセスメントし、対象に応じた援助が実践できる。
4. 在宅療養者を取り巻く保健・医療・福祉の関係機関と現状が理解できる。
5. 保健・医療・福祉の関係機関や職種にチームメンバーとして参加し協働することの重要性が理解できる。
6. 在宅療養者とその家族を対象とする看護活動の意義と責任が理解できる。
7. 療養者とその家族の意思決定を尊重し、尊厳を守る態度を身につける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	臨地実習ガイダンス	臨地実習全体のオリエンテーション 在宅看護実習の概要の説明	全員出席
第2回	オリエンテーション	学内オリエンテーション 事前学習の口頭試問、在宅看護技術の自己学習の確認	各実習グループ毎 全員出席
第3回	施設オリエンテーション 受け持ちケースの決定と情報整理	施設オリエンテーション 受け持ちケースの決定・情報収集・アセスメント	実習
第4回	受け持ち・同行訪問ケースの看護	受け持ち・同行訪問ケースの看護（ケースの概要を情報収集・アセスメントし、訪問目的に応じた看護の実施・評価を行う）	実習
第5回	受け持ち・同行訪問ケースの看護	受け持ちケースにおいては、訪問目的を考慮し、実習期間内で実施可能な看護計画案を立案する。	実習
第6回	学内実習	受け持ちケースの看護計画の作成と援助方法の自己訓練、 中間カンファレンスの進行の検討・資料作成	実習
第7回	学内実習(中間カンファレンス)	受け持ちケースの看護計画の作成と援助方法の自己訓練、 中間カンファレンスの実施・評価	実習
第8回	受け持ち・同行訪問ケースの看護	受け持ち・同行訪問ケースの看護（ケースの概要を情報収集・アセスメントし、訪問目的・計画に応じた看護の実施・評価を行う）	実習
第9回	受け持ち・同行訪問ケースの看護	受け持ち・同行訪問ケースの看護（ケースの概要を情報収集・アセスメントし、訪問目的・計画に応じた看護の実施・評価を行う）	実習
第10回	受け持ち・同行訪問ケースの看護	受け持ち・同行訪問ケースの看護（ケースの概要を情報収集・アセスメントし、訪問目的・計画に応じた看護の実施・評価を行う）	実習
第11回	学内実習	最終カンファレンス（実習目標の達成状況・実習姿勢等自己の学びを発表し、相互の学びを深める）	実習
第12回		※カンファレンスはカンファレンステーマを決め、司会、記録係を決めて行う。中間カンファレンス資料は前日に配布し、各自が問題意識を持って参加する。	実習
第13回			
第14回			
第15回			

評価方法及び評価基準

4/5以上の出席者につき、在宅看護実習評価表に基づき、知識・技術・態度など総合的に評価する。

課題等

実習要項事前学習の項を参照し、知識の復習・技術の自己練習をして臨む。

事前事後学修

実習要項事前学習の項を参照し、知識の復習・技術の自己練習をして臨む。実習終了後、実習目標に沿って実習の学びについてレポートにまとめ実習記録に綴り提出する。

教材教科書参考書

授業で使用したテキスト・プリント・自己学習ノート(実習事前課題）などを実習資料として整理し活用すること。

留意点

1. 在宅看護論・ケアマネジメント論・在宅看護方法論。在宅看護援助論を修得していること。
2. 実習にあたって最も問題となるのは感染予防と健康管理である。在宅における感染予防行動を確実に身につけて臨む。
3. 療養者・家族の生活の場への訪問マナーを守り、実習生にふさわしい態度（対人面・学習面）を心がける。
4. 事前学習を十分に行うこと。